

丈夫な血管 長生きのもと

今回は動脈が太くなる病気です。狭い場合は、運動時に十分な量の血液が送れない間欠性跛行の症状があります。太い場合ですが、太い場合はどうでしょう。か。自覚症状はありません。大動脈という心臓につながる動脈が知らないうちに拡張している人がいます。

大動脈が太くなり（大動脈瘤）、中を通る血液の圧（血圧）に耐えきれ

大動脈瘤①

楽になることと同じです。

先に行ったように大動脈瘤では特別の症状がありませんが、やせておなかへこんだ人では、あおむけになると心臓の拍動に合わせてドクンと膨らむものが臍の上辺りで触れることがあります。

自覚症状なく急死も

大動脈瘤の原因は分かっています。大動脈が硬化との関係が疑われています。血圧の高い人で動脈瘤が大きくなりやすいことは、風船をふくらませるとき、最初は強く吹く必要があるのに、ちょっと大きくなると、大きく丸く触れるなら腹大動脈瘤の可能性がります。胸大動脈瘤は肋骨に囲まれた胸の中にあるので触れることはありません。

大動脈瘤の処置は、以前は、胸部や腹部を大きく切って行う手術し

かありませんでした。一九九〇年代からは、小さな切開で足の付け根の動脈を出して、そこから特殊な機器（ステントグラフト）を血管の中を通して挿入する方法もできるようになりました。

大動脈瘤の手術は、破裂してからは、破裂していない（症状のない）時よりも、死亡率が何倍も高くなります。

先生 尚道 錦見
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校・名古屋大学医学部卒業。大学院修了後、米国学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。